

さぞ苦しいであろう

さぞお困りであろう

死んだほうがましだと考える

その心持もよくわかる

だが 貴方よりももつと苦労しながら

立ち上がった人がある

もつと困っていないながら切り抜けた人がいる

絶望してはならない

人生には必ず活路がある

人を呪うよりも自分の在り方を

反省することだ

人の幸福をうらやむよりも

自ら築くことに努めることだ

そして神仏に仕えるつもりで

人々に奉仕すれば人々を幸いに

するとともに自分が幸いになる

善人は人から重んぜられ

正義は人から尊ばれる筈である

然し善人なればこそ悪人に嫌われ

正義なればこそ不正の輩に却けられる

善人必ずしも重んぜられず

正義必ずしも尊ばれない

だが悪人にして栄えたためしなく

不正にして誉れを得た者はいない

重んぜられずともよい

私は善人でありたい

尊ばれなくともよい

私は正義であることを欲する

令和五年四月三十日 川崎市の円真寺にて 庄司様のお墓参り

”自分には見える花を”

草はU字溝のわずかな隙間からも元気に芽を出します。この草にとって生きる場所はこのすき間で、場所を移すわけにはいきません。まさにこの場所で一所懸命生きているのです。

でも人間の場合は、どうしようもなく辛かったら、逃げたついでいいんです。一つの場所で生きることを「一所懸命」といい、それも一つの生き方ですが、何がなんでもそこで頑張らなくてもいいんです。今生きているこの広い世界こそ私たちが幸せになれる場所だからです。取り巻く環境によってはうまくいかなかったり、思い通りにいかないこともあるでしょう。それを乗り越えてその場所にとどまる人もいれば、違う場所で再起を目指す人もいます。どちらも同じです。人間は生きるだけで十分頑張っているのですから。それぞれの生きる場所で、他人には見えなくとも自分には見える花を咲かせてください。

日蓮聖人ご遺文『開目抄』

私たちが生活する「今」を救う方法を、みんなに理解してもらおうと書かれた一書です。生きているこの世界こそが、人間が真の幸せを得られる場所だと示されています。

令和五年四月三十日 川崎市の円眞寺にて 庄司様のお墓参り